

令和5年度 家政学部 前期授業アンケート結果の講評

講 評 者

ライフスタイル学科長：丹羽誠次郎

管理栄養学科長：竹村ひとみ

こどもの生活学科長補佐：宮武里衣

〔1〕 アンケート実施について

後期授業 14～15 週目に家政学部全科目について授業評価アンケートを実施した。

アンケート回収率については下記の通りであった。

| | 実施率 (%) | 回答率 (%) |
|-----------|---------|---------|
| 家政学部 (全体) | 97.3 | 80.6 |
| ライフスタイル学科 | 96.9 | 75.1 |
| 管理栄養学科 | 94.6 | 86.9 |
| こどもの生活学科 | 98.2 | 76.7 |

〔2〕 授業における教員に対する評価

〔質問項目〕

質問 1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問 2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問 3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問 4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問 5. 教員は、学生が pisa 型学力（知識の獲得・活用・解決）と社会人基礎力を発揮できる授業を展開した。

質問 6. 教員は、シラバスに一致した学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。

質問 7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問 8. 教員が作成した予習・本時・復習シート（PCR シート）は、学修内容の理解に役立った。

質問 1-8 の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」

「1 全くそう思わない」

〔アンケート結果〕

| | 家政学部 (全体) | ライフスタイル学科 | 管理栄養学科 | こどもの生活学科 |
|------|-----------|-----------|--------|----------|
| 質問 1 | 4.16 | 3.99 | 4.42 | 4.07 |
| 質問 2 | 4.07 | 3.86 | 4.31 | 4.01 |
| 質問 3 | 4.11 | 3.99 | 4.29 | 4.04 |
| 質問 4 | 4.09 | 3.90 | 4.32 | 4.03 |
| 質問 5 | 4.07 | 3.90 | 4.33 | 4.00 |
| 質問 6 | 4.13 | 3.95 | 4.40 | 4.03 |
| 質問 7 | 4.09 | 3.92 | 4.36 | 4.00 |
| 質問 8 | 4.04 | 3.85 | 4.34 | 3.95 |

質問 1～8 授業における教員に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

「授業における教員に対する評価」はおおむね 3.9 ポイント前後を得ている。これは前学期（2022 年度後期）と比しても全体に 0.1～0.2 ポイント下落の傾向にあり、かつ依然として全項目において他学科の平均値に及ばない。これは、ライフスタイル学科のカリキュラムが広範囲に亘っており、全ての受講科目に同じような興味・関心を持つことができていないことも一因かもしれない。また質問項目別では質問 8「教員が作成した予習・本時・復習シート（PCR シート）は、学修内容の理解に役立った」が、最もポイントが低く、これは質問 9 以降の「学生自身の学修に対する評価について」の結果にも関連する。授業への取り組みの見直しと教材の充実を学科教員に求めたい。

〔管理栄養学科〕

「授業における教員に対する評価」について概ね良好な評価を得た。前年度前期と同程度か若干高い評価を得た。中でも、質問 1「授業時間分の学修内容の実施」質問 6「シラバスに沿って学修内容を明確した授業への取り組み」が高い評価を得た。一方、質問 3「教員は質問や相談ができるように配慮」が若干低評価であったことから、教員は質問や相談ができるように配慮しながら授業を展開していくことが必要である。

〔こどもの生活学科〕

他の 2 学科と比べると、全体を通して、管理栄養学科には及ばず、ライフスタイル学科を超えているという結果となっている。評価について正直に忌憚のない意見を出している結果であろう。質問 8 の教員の作成したシートへの評価が低い点については、真摯に受け止めて改善する必要がある。実習や演習などの実技教科が多い授業構成になっているので、学生の宅習内容も増える傾向にあるため、シートの内容を精選するようになりたい。

〔3〕 学生自身の学修に対する評価について

質問 9. あなたは、予習・本時・復習（PCR シート）に記載されている社会人基礎力の能力を発揮して、予習・復習に取り組んだ。

質問 10. 毎週シラバスの学修内容を確認して、予習（課題・レポート含む）を実施した。

質問 11. 毎週シラバスの授業内容を確認して、復習（課題・レポート含む）を実施した。

質問 12. 予習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問 13. 復習をすることで学修内容への理解が深まった。

質問 14. この科目に対して予習（事前学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した 1 回当たりのおよその時間（10 分単位程度で）で教えてください。

質問 15. この科目に対して復習（事後学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した 1 回当たりのおよその時間（10 分単位程度で）で教えてください。

質問 16. シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問 17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

質問 18. 教員からの学修支援に満足している。

質問 19. あなたは、この授業を通してシラバスの「科目の概要」に記載されているディプロマポリシーに到達した。

★質問 9-13、16-19 の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

★質問 14、15 の回答：記述式（数値入力）

〔アンケート結果〕

| | 家政学部（全体） | ライフスタイル学科 | 管理栄養学科 | こどもの生活学科 |
|-------|----------|-----------|--------|----------|
| 質問 9 | 4.00 | 3.77 | 4.33 | 3.94 |
| 質問 10 | 3.91 | 3.66 | 4.22 | 3.91 |
| 質問 11 | 3.93 | 3.72 | 4.22 | 3.93 |

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 質問 12 | 3.97 | 3.73 | 4.29 | 3.92 |
| 質問 13 | 4.02 | 3.82 | 4.31 | 3.96 |
| 質問 14 | 41.01 | 20.41 | 54.85 | 46.34 |
| 質問 15 | 45.18 | 30.12 | 66.52 | 44.82 |
| 質問 16 | 3.91 | 3.76 | 4.05 | 3.91 |
| 質問 17 | 4.05 | 3.86 | 4.24 | 4.03 |
| 質問 18 | 4.04 | 3.85 | 4.25 | 3.99 |
| 質問 19 | 3.89 | 3.71 | 4.04 | 3.90 |

質問 9～19 学生自身の学修に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

「学生自身の学修に対する評価について」も「授業における教員に対する評価」同様、すべての項目において3学科中、最低のポイントにとどまっている。予習・復習に要している時間についてもシラバスで示している時間に足りておらず、多少の改善が見られた前学期の82.2分から50.5分に下落している。今後も、予習・本時・復習シートの見直しとともに、授業時間外での学修に取り組めるよう教員側からの指示、指導を徹底していきたい。質問19「あなたは、この授業を通してシラバスの『科目の概要』に記載されているディプロマポリシーに到達した」の数値は依然として低い。継続して授業改善に取り組む必要がある。

〔管理栄養学科〕

「学生自身の学修に対する評価について」概ね良好な評価を得た。中でも、質問9「PCRシートに記載されている社会人基礎力を発揮した予習・復習への取り組み」、質問13「復習による学修内容への理解の深まり」は前年度前期同様に高い評価を得た。前年度同様、予習に比べ復習により多くの時間を費やしていた。また、前年度前期に比べ、平均予習・復習時間が13.4分、8.8分増加した。一方で、質問16「シラバス記載の学修の到達目標を達成できた」、質問19「シラバスの『科目の概要』に記載されているディプロマポリシーに到達した」の評価はやや低かった。到達目標を達成していないとの評価に対して、科目の特性を踏まえた対策を講じる必要があると考える。

〔こどもの生活学科〕

学生の自己評価に関するポイントは教員への評価よりも全て低いという結果となっている。今後人を育てる職業に付くためには、自己評価を高めることが自立した教員や保育者となる道である。自分について厳しい評価をしないように日頃の言葉がけで自尊感情を高めるように指導したい。

〔4 学修行動について〕

質問20. この授業の学修行動において、必要性はあったが発揮「できなかった」能力はどれですか。（複数回答あり）

- ★質問20の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

〔アンケート結果〕

| | 発揮できなかった能力 | | | |
|----------|------------|-----|-------|------------|
| 家政学部（全体） | ストレスコントロ | 計画力 | 課題発見力 | 傾聴力(22.3%) |

| | | | | |
|-----------|--------------------|------------------|------------------|------------------|
| | ール力(23.6%) | (23.4%) | (23.0%) | |
| ライフスタイル学科 | 創造力(27.9%) | 課題発見力 (27.6%) | 働きかけ力 (25.4%) | 計画力(25.2%) |
| 管理栄養学科 | ストレスコントロール力(23.1%) | 課題発見力 (22.7%) | 発信力(22.3%) | 創造力(21.8%) |
| こどもの生活学科 | ストレスコントロール力(26.5%) | 計画力 (24.8%) | 働きかけ力 (21.8%) | 課題発見力 (21.4%) |

質問 20 学生自身の学修行動に対する評価について

〔ライフスタイル学科〕

必要性はあったが発揮「できなかった」能力のうち「創造力」「働きかけ力」「計画力」については前学期と同様だが、今期はその他に「課題発見力」が挙げられている。ここでの学生の回答は、学修活動に取り組む中でその能力要素をどれだけ強く意識したか、あるいは自身の目標をどれだけ高く設定したかにも関係していると考え。とくに創造力を発揮「できなかった」とする学生が 27.9%と他学科と比して顕著に高い数値を示し、そのほかでも高い数値が現れているのは、たとえばスタジオのプロジェクトのように難易度の高い長期のプロジェクトと真摯に向き合った結果であるとも考えられよう。

〔管理栄養学科〕

必要性はあったが発揮できなかった能力として「ストレスコントロール力」「課題発見力」「発信力」が上位に挙げられた。いずれも毎学期 20%以上の学生が挙げる本学科に特徴的な能力である。今期の特徴として「ストレスコントロール力」が最上位になった。反対に、前に踏み出す力である「主体性」「働きかけ力」「実行力」は上位 4 項目には挙がらず、多くの学生が発揮できていると考える。

〔こどもの生活学科〕

発揮できなかった能力として、「ストレスコントロール力」「計画力」が上位にあがっていることは、今後の職業の適性を考えると問題である。特に、人を育てる職業をしていくためには、ストレスコントロールを身に付けることで、自分にとっても、対象の児童や子ども、関係の保護者にとっても大きな影響をもっている。その点に意識があるということは今後の成長に期待できるとも言える。